

## 1 学習評価の改善・充実

### (1) 学習評価の改善の基本的な考え方

#### ア カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校は、日々の授業の下で生徒の学習状況を評価し、その結果を生徒の学習及び教師による指導の改善並びに学校全体としての教育課程の改善などに生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っている。このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの中核的な役割を担っている。

#### イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「指導と評価の一体化」を図るためには、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切である。新学習指導要領で重視している主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、専門教科情報科における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

### (2) 評価の観点及びその趣旨

各単元における評価規準を作成する際は、以下の観点及び趣旨を踏まえること。

観 点	趣 旨
知識・技術	情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

### (3) 評価規準の設定

各学校においては、学校の実態を考慮し、単元や題材の評価規準等、学習評価を行う際の評価規準を作成する。

単元とは、生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各学校の実態に応じて適切に構成したものであり、専門教科情報科における〔指導項目〕と単元の関係は、次のとおりである。

なお、専門教科情報科については、「2 内容〔指導項目〕」に「学びに向かう力・人間性」に係る項目が存在することから、観点別学習状況の評価になじまない部分などを除くことで「主体的に学習に取り組む態度」の「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成することができる。

専門教科情報科における〔指導項目〕と単元の関係
<p>【単元の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〔指導項目〕をそのまま単元とする</li> <li>・〔指導項目〕を小項目ごと等、いくつか分割して単元とする</li> <li>・いくつかの〔指導項目〕を組み合わせる単元とする</li> </ul>

ここでは、科目「情報産業と社会」の「2 内容（4）情報産業が果たす役割」を単元とした場合における評価規準の作成について、その考え方を示す。

ア 単元の目標

(1)	(2)	(3)
情報産業のあるべき姿や社会に及ぼす影響について理解するとともに、情報セキュリティや情報モラルなどに関する基礎的な知識や技術を身に付ける。	情報産業が抱える課題を発見し、情報技術者に求められる知識及び技術を活用して創造的に解決することができる。	情報産業の役割と情報技術者の責務について自ら学び、法令を遵守して適切に業務を遂行することの意義や重要性を尊重し、情報社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

**【作成のポイント①】**  
生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

**育成すべき資質・能力を踏まえて評価規準を作成**

**【作成のポイント②】**  
人間性などの評価になじまない部分は除いて作成する。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報産業のあるべき姿や社会に及ぼす影響について <u>理解している</u> とともに、情報セキュリティや情報モラルなどに関する基礎的な知識や技術を <u>身に付けている</u> 。	情報産業が抱える課題を発見し、情報技術者に求められる知識及び技術を活用して <u>創造的に解決することができる</u> 。	情報産業の役割と情報技術者の責務について自ら学び、法令を遵守して適切に業務を遂行することの意義や重要性を尊重し、情報社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている</u> 。

**【作成のポイント③】**  
「十分満足できる」(A)は、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるとき。

**学習活動に即して具体化**

**【作成のポイント④】**  
「努力を要する」(C)の生徒に対しての指導の手立てを記載する。

観点	評価規準	「おおむね満足できる」と判断できる状況 (B)	「十分満足できる」と判断できる状況 (A)	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒に対する手立て
知識・技術	情報産業が社会に及ぼす影響について理解しているとともに、情報セキュリティなどに関する知識や技術を身に付けている。	情報産業が社会に及ぼす影響について理解しているとともに、情報セキュリティなどに関する基礎的な知識や技術を身に付けている。	情報産業が社会に及ぼす影響について理解しているとともに、これらと関連付けて、情報セキュリティなどに関する知識や技術を身に付けている。	情報セキュリティについては、SNSやスマートフォンの活用など、生徒にとって身近な事例を用いて、個別に指導する。
思考・判断・表現	情報産業が抱える課題を発見し、情報技術者に求められる知識及び技術を活用して創造的に解決することができる。	情報技術が抱える課題を発見し、情報技術を適切に活用して解決する方法について考察し、表現している。	情報技術が抱える課題を発見し、情報技術を適切かつ効果的に活用して解決する方法について考察し、具体的に表現している。	情報技術が抱える課題を発見する上でヒントとなる事例を挙げ、課題の解決に向けた情報技術の活用方法について、個別に指導する。
主体的に学習に取り組む態度	情報産業の役割と情報技術者の責務について自ら学び、情報社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	法令を遵守し、情報社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	法令を遵守して適切に業務を遂行することの意義や重要性を尊重し、情報社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	情報モラルの重要性について、スマートフォンによるトラブルなど、身近な事例を用いて、個別に指導する。

※ 「おおむね満足できる」状況 (B) に達していない生徒を、「努力を要する」状況 (C) と判断している。

#### (4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

##### ア 評価の計画を立てることの重要性

(ア) 学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を生徒に育むためには不可欠である。

(イ) 評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするためには、いつ、どのような方法で、評価をするための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが大切である。

##### 【重要事項】

毎時間、生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではないことから、生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要である。

##### イ 評価の進め方

評価の進め方について、留意事項及び観点ごとの考え方と例を次に示す。

##### 【留意事項】

評価の記録を集めることに終始して、学期末や学年末になるまで必要な指導や支援を行わないまま、一方的に評価をすることがないようにすること。

観点	考え方	例
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の各分野について、体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けているかどうかについて評価する。</li> <li>評価方法として、テスト等において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮することが大切である。</li> <li>実際に知識や技術を活用できる学習場面を設けるなど、多様な学び方を適切に取り入れることが考えられる。</li> </ul>	ワークシートやレポート等の記述内容、作品を制作した背景や意図、情報を分析した資料の説明内容などから理解度を測ることで評価する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているかどうかについて評価する。</li> </ul>	テスト、論述の場面やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現など、多様な活動を取り入れ、それらを集めたポートフォリオの活用により評価する。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているかどうかについて評価する。</li> <li>挙手の回数などの形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要である。</li> <li>1回の観点の見取りで評価するだけでなく同じ観点で複数回実施することで生徒の変容を把握し、教員の指導や支援によって、生徒の主体的に取り組む態度の進歩の状況で評価する。</li> </ul>	<p>小單元ごとにアンケートフォームなどを利用して、学習の振り返りや、学習した内容を実生活で意識し活用したことについて生徒が記入した内容を多面的に評価する。</p> <div data-bbox="986 1608 1417 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>単元の振り返り</b></p> <p>本単元「情報産業が果たす役割」における学習の中で、一番大切だと思ったことは何ですか。</p> <p>回答を入力</p> <p>その理由を教えてください。</p> <p>回答を入力</p> <p>本単元の学びを、今後の生活にどう生かしていきますか。</p> <p>回答を入力</p> <p>送信</p> </div>

##### 【留意事項】

学習支援ソフトの活用では、ICT端末を使用することが目的とならないこと。

**【ICT端末を使用した学習支援ソフトの活用による効果】**

- ① 生徒自身が学習を振り返りながら学ぶことで、自身の変容を把握するとともに、生徒が学習に主体的に取り組む態度や学習への自己調整を促すことができる。
- ② 小單元ごとの評価に利用するだけでなく、記載内容を一年通じて積み重ね、各生徒への指導に生かすなど、必要に応じて総括するための資料となる。

**(5) 観点別学習状況の総括の進め方**

観点別学習状況の評価結果は、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。

各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。ここでは、2つの例を次に示す。

＜観点別学習状況の総括の進め方＞	
A、B、Cの数を基に総括する方法	A、B、Cを数値に置き換えて総括する方法
何回か行った評価結果のA、B、Cの数が 多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているとする考え方に立ち総括する方法	何回か行った評価結果A、B、Cを、A=3、B=2、C=1のように数値化し、合計や平均を求め総括する方法
【例】 3回評価を行った結果が「A B B」 (Bが最多のため) ↓ 「B」	【例】 総括の結果をBとする範囲を 「 $1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5$ 」とした場合 3回評価を行った結果が「A B B」 (平均値≒2.3のため) ↓ 「B」
【留意事項】 同数の場合や3つの記号が混在する場合の総括の仕方はあらかじめ学校内で決定しておく必要がある。	【留意事項】 特定の時点に重きをおいて評価を行うこともできるが、その際は平均値による方法以外についても、様々な総括の方法が考えられる。

評定は、生徒がどの教科の学習に望ましい学習状況や課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とするものである。

ここでは、専門教科情報科において、A、B、Cの組合せから評定に総括する際の留意事項を3つ示す。

＜A、B、Cの組合せから評定に総括する際の留意事項＞
① 評定を決定するに当たっては、「B B B」であれば3を基本とし、「A A A」であれば5又は4、「C C C」であれば2又は1とするのが適当であり、それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの組合せから評定にすることができるよう各学校において適切に定める必要がある。
② A、B、Cの3段階の評価を基に5段階の評定を行うため、例えば年間を通じて「A A A」でも評定4のケースが考えられる。評定の決定方法については、生徒及び保護者に十分に説明するとともに、理解を得ることが重要となる。
③ 「情報実習」及び「課題研究」等の実技を伴う科目においても、各観点の重みが大きく異なるないように、実際に知識や技術を用いる場面、レポート及びグループワーク等を活用し評価すること。